

磐城新聞

体刊 大祭 第二日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月
五十錢、郵税十錢
廣告料 (雜報欄行五十錢)
發行所 磐城新聞社
編輯所 磐城新聞社
印刷所 磐城新聞社
發行所 磐城新聞社



奉頌明治節

秋晏高く晴れて節清しく氣爽やかに東籬菊花の紅白妍を競ひ西郊楓葉の握丹朱を欺く。寔に一歳中最も閑適の趣ある斯月斯日欽定第一の明治節を迎へて代々木の靈域、大帝の神鎮ります宮居の大前に莊嚴なる祭式を執り行はせらることは綏に尊く畏き極みにこそ、

秋晏高く晴れて節清しく氣爽やかに東籬菊花の紅白妍を競ひ西郊楓葉の握丹朱を欺く。寔に一歳中最も閑適の趣ある斯月斯日欽定第一の明治節を迎へて代々木の靈域、大帝の神鎮ります宮居の大前に莊嚴なる祭式を執り行はせらることは綏に尊く畏き極みにこそ、

夫れ然り、明治の盛世に遇ひて堯舜のそれに優る盛事を目睹し耳聞せる、猶昨の如き感あるも、大帝神去りましてより駒光過り易く、早くも拾有六年の居諸を經今は唯史上の事として、茫乎夢よりも淡き印象を留むるのみに至らんす。識者これに鑑みる處あり、明治節設定の議は議會に提唱せられ各員虔肅裡に滾湧一致の協賛を得て今日しもこの佳き日、歡びの日に會す我れ等雨露の惠澤に生ひ立ちし民草たるもの、齊しく赤衷を披き廣大無邊の御恩徳を奉頌せずして可ならんや。故を以て、大帝が御在世の間に山なす高き御心の顯はれる數々の御逸事の中より、所謂「義は則ち君臣、情は則ち父子」てふに最も適はしく宛ら御仁慈、御憐愍の權化も崇め参らすべき御一事を記しまつらん、開は彼の日清戦役中のことなりき。大帝には久しく廣島の大本營に御駐蹕あらせられしが御座所は四十二疊の室は名のみ椅子卓の外何の調度裝飾もなくその上隙洩る風を防ぐの備へもなかりしかば側近の人々いたく恐懼して、或る時は煖爐、又或る時は安樂椅子を進め参らせたるに、龍顏忽ち御愁ひに曇らせられ「戦地にも煖爐があるか、安樂椅子があるか」このみ、他を宣はせられず人々畏き大御心の程を推しまつりて、坐ろに感涙に咽び、出征の將士達は傳へ承るまゝに、彌ます「盡忠報國の志を鞏うしたりこそぞ。

嗚呼この令辰 明治の聖代を常磐堅磐の末までも記念しまつるべき秋に當り、おはしましし日の御事ごも何くれごなく思ひ出づれば、儼たる御威容、眼前に髣髴して今更の如くに御追慕の情熱切なるを覺はずんばあらず。仰ぎ願はくは、家國民人の爲に彼の蒼より加護の御眈を垂れさせ給はむことを。

これを奉頌之辭とす。

昭和二年十一月三日

磐城新聞社同人

石城銀行組合

磐城銀行

専務取締役 白井 一郎
取締役支配人 草野 順平

平銀 行

頭 取 山崎 與三郎
常務取締役 本村 清治

磐越 銀行

頭 取 中野 甲藏
支配人 瀧澤 俊平

磐城 銀行

頭 取 馬目 太平
専務取締役 鈴木 辰三郎
支配人 鈴木 源藏

磐東 銀行

頭 取 江尻 博孝
専務取締役 金 成 通

四倉 銀行

頭 取 吉田 安之助
専務取締役 戸田 兵藏

第七十七 銀行

支店長 小原 長英

第七十七 銀行

支店長 田中 稔

農工 銀行

支店長 河西 八十治

常磐 銀行出張所
主任 鷲 久三

創業卅年の古き歴史と 大なる磐城銀行

故郷の一角に聳ゆ

磐城銀行の歴史は、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。

白井一郎氏

斯界の一權威
磐城銀行専務白井一郎氏は、大正十一年の創業に當り、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。

磐城銀行の成績

純益八萬五千圓
今試みに磐城銀行の昭和二年九月三十日除開の他、上半期（第六三三）の業績を示せば、常期純益八萬四千圓、特別利益一萬一千圓、特別損失一萬一千圓、特別利益一萬一千圓、特別損失一萬一千圓、特別利益一萬一千圓、特別損失一萬一千圓。

草野順平氏

取締役に就任
磐城銀行の取締役に、草野順平氏が就任した。草野氏は、磐城銀行の創業に當り、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。

躍如たり大倉鑛業の面目

豪快無双の漆野氏の傘下
大倉鑛業の面目は、躍如たり。漆野氏の傘下で、大倉鑛業は、豪快無双の業績を挙げた。漆野氏は、大倉鑛業の創業に當り、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。その歴史は、故郷の一角に聳ゆる如く、大正十一年の創業に始まる。

此の人格者

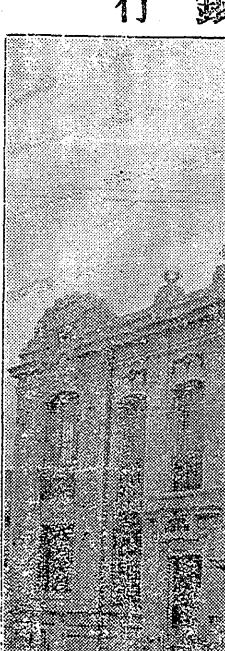
在野法曹界に
信頼頼に篤し
在野法曹界に、此の人格者が現れた。信頼頼に篤し、在野法曹界に、此の人格者が現れた。信頼頼に篤し、在野法曹界に、此の人格者が現れた。信頼頼に篤し、在野法曹界に、此の人格者が現れた。

高久病院 誇り

先づ第一に指を屈す
高久病院は、誇りをもち、先づ第一に指を屈す。高久病院は、誇りをもち、先づ第一に指を屈す。高久病院は、誇りをもち、先づ第一に指を屈す。高久病院は、誇りをもち、先づ第一に指を屈す。

捲土重來の 磐炭部

成績良好
磐炭部は、捲土重來の勢いで、成績良好を挙げた。磐炭部は、捲土重來の勢いで、成績良好を挙げた。磐炭部は、捲土重來の勢いで、成績良好を挙げた。磐炭部は、捲土重來の勢いで、成績良好を挙げた。



大倉炭鑛業會社

無煙炭
大倉炭鑛業會社は、無煙炭の生産に力を入れている。大倉炭鑛業會社は、無煙炭の生産に力を入れている。大倉炭鑛業會社は、無煙炭の生産に力を入れている。大倉炭鑛業會社は、無煙炭の生産に力を入れている。

所長 漆野佐市郎

探炭課長 尾藤憲祐
經理課長 和泉隆介
勞務課長 高橋榮雄

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

財力と人物の 備はる入山採炭

名實俱に整ふ
完全な勞資協調

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

縣會議員

山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

講談

(177)

高橋海太郎 著作
右衛門八郎 挿絵

取り換へ子

「何んぞ証跡があるか？」
昌康は驚きの色を浮かべ「うむ」
「その時に我々の仲間より一足先に忍び入つて姫を盗み出した者がござりました。如何にも思ひ出した」
「その時に曲者の手から奪い返したのが神部清左工門の屈出がござりました」
昌康はうなづいた
「そこで考へまするに當城内に忍び入つて姫を盗まうとする者は、も何者でござりますやう」
重太夫は昌康の面をしつと見つめた

重太夫は餘程重大な事件があるらしく云つた
「ナニ他路を憚る故に人懐ひをせいで申すかよこり」
千世は三度首をひました
「今思へば何處やら神部（似たやうに御ざります）
「うむ、しかし不思議ではないか千世は生れた時から余が見て知つて居る双子の男の子なら何處で取りかいたか知らぬとも申されや

「重太夫殿妾も御遠慮致しませうか」
と照の方が訊いた
「いや、た部屋様は御同席



「重太夫はとどめた」
として重大な事とは如何なるやう
昌康はまだ信じかねるやうが男の子と女の子をどうして取りかへることが出来た事件が出来たのちや
と侍女達が次ぎの間に退つたので昌康が問ふた
「それに、僕ではござりませぬが神部清左工門の一家ませう」
と照の方、半信半疑の子清之助と申すは成昌公の子ではないかと思ふので
「それば——」と重太夫は御座りますか
と重太夫は意外な事を云ふのであつた

「ナニ、神部清左工門の子清之助が成昌の子と申すか千世姫御出生の夜は、何れを申す成昌の出来事と」と反問した
の千世は妙光寺に托して育てた千世姫ではないか
昌康は馬鹿馬鹿しいやうであつたか
昌康は重太夫の云ふ事に最早忘れでござりまするかあの夜拙者は一味の人であつたかも知れませぬ」
重太夫は語つた

「ナニ、取替へ子とござりまするかあの夜拙者は一味の人であつたかも知れませぬ」
重太夫は語つた

「ナニ、取替へ子とござりまするかあの夜拙者は一味の人であつたかも知れませぬ」
重太夫は語つた

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

青沼醫院
平町舊城跡
電話四〇三番

電話
至急買ひたし希望の方は申出で下さ

姓名在社

大和田病院
平町南町
電話一七〇番

古河礦業株式會社

好間礦業所

所長 下野十朗
經理課長 湊谷定次郎
採炭課長 矢野公一

入山採炭株式會社

所長 漆野佐市郎
事務部長 吉田宗雄
採炭部長 大貫經次
顧問 前田復三

大倉礦業株式會社

茂尻炭鑛

所長 漆野佐市郎
總務 林啓一
〔北海道空知郡所在〕

磐城炭礦株式會社

專務取締役 倉田龜吉
兼所長
事務部長 青沼鋒太郎
採炭部長 菅原萬次郎
庶務課長 水野虎三郎
勞務課長 濱崎善三郎

平藝妓屋組合

玉川電六八 吉野家電二六〇
谷口電八 開花電二五〇
甲子電四 湖月電二四五
三好家電三五〇 仲家電一五二
久本電二〇九 福清電四三三
山形家電二二七 林家電二二六
二葉家電二六四 品澤電三三〇
米京電一九 富美家電一五三
橘家電二〇二 眞佐家電三五四
竹廼家電七三 榮家電二〇四
三島屋電三三

小田炭礦株式會社

社長 萩原申八

磐城水産工業株式會社

社長 小野晋平

植田水力電氣株式會社

社長 金成通

東部電力株式會社

平營業所

所長 武田精一

堀江工業株式會社

專務取締役 江口忠一
取締役支配人 鈴木唯治

大倉礦業株式會社

沖見初炭鑛

所長 漆野佐市郎
總務 高橋岩太郎
〔山口縣宇部市所在〕